

# 調査報告書

## グループホームの外部評価項目

### (調査項目の構成)

#### I. 運営理念

1. 運営理念の明確化
2. 運営理念の啓発

#### II. 生活空間づくり

1. 家庭的な生活空間づくり
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり

#### III. ケアサービス

1. ケアマネジメント
2. ホーム内でのくらしの支援
  - (1) 介護の基本の実行
  - (2) 日常生活行為の支援
    - 1) 食事
    - 2) 排泄
    - 3) 入浴
    - 4) 整容
    - 5) 睡眠・休息
  - (3) 生活支援
  - (4) ホーム内生活拡充支援
  - (5) 医療機関の受診等の支援
  - (6) 心身の機能回復に向けた支援
  - (7) 入居者同士の交流支援
  - (8) 健康管理
3. 入居者の地域での生活の支援
4. 入居者と家族との交流支援

#### IV. 運営体制

1. 事業の統合性
2. 職員の確保・育成
3. 入居時及び退居時の対応方針
4. 衛生・安全管理
5. 情報の開示・提供
6. 相談・苦情への対応
7. ホームと家族との交流
8. ホームと地域との交流

訪問調査日 平成18年9月4日  
調査実施の時間 開始10時10分 ~ 終了15時10分

訪問先ホーム名 グループホーム うららか船橋  
県 千葉県

主任評価調査員  
(記入者)氏名 \_\_\_\_\_

同行調査員氏名 \_\_\_\_\_

グループホーム側対応者

職名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

ヒヤリングをした職員数 \_\_\_\_\_ 2人

#### ※記入方法

- 調査の結果を調査員同士が話し合い、主任調査員がご記入ください。
- 「できている」「要改善」「判断不能」の欄のいずれかに○を付けて下さい。
- その判断した理由や根拠を記入して下さい。  
要改善、判断不能の場合の根拠、理由は必ずお書き下さい
- 要改善とした場合、改善すべき点等の特記事項があれば記入して下さい。

#### ※項目番号について

- 評価項目は71項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

#### ※用語について

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

# 1. 調査報告書

主任調査員氏名 / 同行調査員氏名

項目番号 外部 自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	<b>I 運営理</b> 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、痴呆性高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			管理者はグループホームに関わる法令の意義を理解し、運営上の方針や目標として、全職員一同十分に話し合い、共有しており、日々の実践に具体化する努力をしていた。	
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			ホーム内3箇所に明示、重要事項説明書、ホームのパンフレットにも明示され、入居者及びその家族に分かりやすく説明していた。重要事項説明書の基本理念の文面に「改善する精神を大切にします」とあるが、その実践と努力が感じられた。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書、重要事項説明書に分かりやすく書かれてあり、入居者及び家族等に説明し同意を得ていた。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)	○			散歩時、近隣の方、商店との交流に努め、地域の行事にも参加している。また近隣の幼稚園行事に参加するなど、日々取り組んでいた。2ヶ月に1回のホーム便りも発行し広報に努めていた。	
	<b>運営理念 4項目中 計</b>	4	0	0		
	<b>II 生活空間づくり</b> 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			建物全体の感じは家庭的とはいえませんが、一步玄関を入ると違和感や威圧感無はなく、家庭的な雰囲気づくりの配慮があった。	
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			共有の生活空間はいずれも家庭的な雰囲気調度や設備も家庭的である。	折角の露天風呂の設備を工夫して、有効かつ入居者の楽しみとなる利用する工夫とアイデアに期待(足湯等)

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			家庭的な生活空間の中に、食卓が2セット、応接セットがありお互いに距離を持って過ごせる環境作りがあった。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			使い慣れた家具や生活用品、装飾品、仏壇、趣味の品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっていた。	
<b>家庭的な生活環境づくり 4項目中 計</b>			4	0	0		
<b>2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり</b>							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			入居者の身体機能の低下に合わせ、設備、使い勝手の工夫、物干しの高さの調節等配慮があった。歩行器の使用で安全かつ自立した生活を送れる支援に入居者が行動的であった。	今後身体機能の低下にあわせ、トイレの手前に引くドアから引き戸へのリフォームを考える必要があると思える。
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			トイレ、浴室や各居室の入り口には手作りの目印や表札が掛けてあり混乱と危険防止のために、大きなガラスには飾りを貼る等の工夫があった。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			交通量の多い幹線道路に面している玄関側は広い駐車場の確保で車の騒音は室内には影響なく、南に面したリビングの大きな窓側からは緑の多い林と畑が見渡せる落ち着いた環境である。職員も入居者と向き合って入居者に配慮した会話をしていた。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			24時間の換気設備がある。南の大きな窓の開閉で温度調節に心がけ入居者が季節を感じる事が出来る様配慮していた。浴室や洗濯室も臭気やだよみもなかった。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			見やすい時計、カレンダーの他に入居者手作りの日めくりカレンダーを毎日入居者自身に変えてもらう工夫、南の大きな窓から見える自然の季節の変化を感じさせる配慮があった。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			入居者の過去の生活暦を把握して、趣味や馴染みの物品を用意して、本人の経験や状況に応じて提供していた。	

心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計	6	0	0		
--------------------------	---	---	---	--	--

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>Ⅲ ケアサービ</b> 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			6か月に1回の他、管理者の工夫とアイデアによるシートの作成で、職員全員が入居者に向き合い、見守りと気付きによる状況変化を見逃さず課題を追求した具体的な計画を作成していた。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			私の暮らし方シート、私の生活環境シート、私の姿と気持ちシート等の作成は自然と職員全員が入居者ひとり一人と向き合い、状況を把握でき、気付きを高め職員全員で取り組む仕組みが出来ていた。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			面会も多く、家族会の出席も多い、家族と相談しながら共に向き合っていこうという配慮で作成していた。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			実施期間が明示されていた、状態変化を見逃さず、変化に応じた見直しを行っていた。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			管理者の工夫のシートにより、入居者ひとり一人の過去の生活歴から現在の心身の状況や特徴や変化が具体的に記録されていた。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			勤務形態による引継ぎ、申し送り、役割の仕組みを作成し、全ての職員が情報伝達を確実に言い、共有していた。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			各フロア毎のミーティング、全体のミーティングを毎月行い、意見交換を行っていた。	
<b>ケアマネジメント 7項目中 計</b>			7	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			ひとり一人の生活歴、性格、思いを把握して、良く話を聞きひとり一人を受けとめてさりげないケアをしていた。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			明るく、やさしい雰囲気で見守っていた。	
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			生活歴、本人の経験や趣味を把握してその人らしい暮らしが出来る様に支援していた。編み物が得意な入居者が職員の生まれてくる赤ちゃんの為に衣服を編んでいたことは、家庭的な温かみと入居者と職員の関係のよさを感じた。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			入居者のペースでゆったりと暮らしていた。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			歩行器を使う入居者はワゴンの使用で台所まで行き、ひとり一人が自分でご飯とお味噌汁の量を伝えたり、出来る人は自分で盛り付けたりと日常的に取り組んでいた。	
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			場面作り、環境作りをして、見守りや一緒に行なうようにしていた。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			全職員が正しく認識して実践していた。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			玄関を開けるとチャイムが鳴るように工夫され、日中は鍵をかけない配慮をしていた。夜間は入居者の状況で鍵をかけているがその理由は家族に説明していた。	

介護の基本の実行 8項目中 計	8	0	0		
-----------------	---	---	---	--	--

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			家庭的な食器を使用していた、茶碗や湯のみ、箸等は使い慣れたものを持参して使用していた。	
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			食事の前に必ず咀嚼・嚥下等の身体機能の衰えを補う体操や深呼吸を生活リズムに取り入れ、健康状態と食欲に合わせた配慮があった。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			入居者と向き合い状況把握のためのシートの作成と丁寧な記入で入居者全員の1日全体の把握が完全に出来ていた。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			入居者と同じ食事を一緒に食べながら、さりげなくサポートしていた。	
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			ひとり一人の排泄パターンを把握して、声かけによる誘導で自立に向けた支援をしていた。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			入居者の性格や心身状況の把握で不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っていた。	
		3) 入浴					
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			ひとり一人の希望で見守り、一緒に入る人等希望にあわせた入浴支援をしていた。	
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			ひとり一人の希望とかかりつけの理美容院の利用を付き添って支援していた。このことが入居者にとって外出であり、楽しみであり、主体性が蘇り本人に心地よさと明るさ、和やかさの安定につながることを周知して取り組んでいた。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援  整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			プライドを大切に、整容の支援、おしゃれへの配慮もしていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援  入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			ひとり一人の睡眠パターンを把握して、日中に活動を取り入れる工夫と努力をしていた。	
<b>日常生活行為の支援 10項目中 計</b>			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援  入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			ひとり一人の管理能力を把握して、希望や力量に応じて支援していた。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			ひとり一人と向き合い、場面作りと声かけの支援で1日の生活リズムの仕事として出番が見出せるように配慮していた。	
<b>生活支援 2項目中 計</b>			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談  心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			ひとり一人入居前からのかかり付け医への送迎や付き添い支援をしているため、入居者の主治医と気軽に相談できる関係を築いていた。当法人の理事長も歯科医師であるため毎日の連絡を通じて常に相談していた。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携  入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			医師、家族、職員で話し合い退院のための支援、協力を行っていた	
44	74	○定期健康診断の支援  年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			各入居者のかかり付け医への支援の為に定期的に健康診断を受けるだけでなく、医師の指導も受けられる支援をしていた。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 痴呆の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			歩行器やワゴン等の使用で日常生活で動きをなくさない工夫や買い物散歩、かかり付け医への通院、理美容院への支援、嚥下体操等日常生活の中で自然に維持・向上するよう取り組んでいた。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			入居者の心身の状況、性格、入居者間の人間関係を把握して、事前に防ぐ努力と起きた場合はその解消に対しても、ホームでの生活がストレスにならぬよう全員に対して配慮していた。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			食堂の中に洗面台があり、食事の後、生活リズムとして日常的に支援していた。見守りや支援もし易い位置である。法人代表者が歯科医師であることも幸している。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			薬の一覧表の作成、管理シートの作成で正しい支援をしていた。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)		○		職員全員の受講は完了していない。前向きに検討し努力していた。	継続的な研修を望む。
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			法人代表者が医師であるため、取り決めもマニュアルも作成され、それに基づき対応していた。	
<b>医療・健康支援 9項目中 計</b>			8	1	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>3. 入居者の地域での生活の支援</b>					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			見える所に畑や公園があり散歩に出かけて楽しんでた。真向かいの幼稚園の行事に参加したり、かかり付け医への通院がおしゃれをして出かけるほどの楽しみである事を承知して、そのための職員の配置とローテーションで積極的に支援していた。	
<b>地域生活 1項目中 計</b>			1	0	0		
		<b>4. 入居者と家族との交流支援</b>					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			何時でも気軽に訪問できる来やすい雰囲気を作り、職員も家族と気軽に相談できる関係を築く努力をしていた。	
<b>家族との交流支援 1項目中 計</b>			1	0	0		
		<b>IV 運営体制</b> 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			熱意のみならず、工夫と配慮でケアサービスの向上に共に取り組んでいた。管理者作成のシートは職員全員が日常生活を通して、自然と入居者と向き合い、心身の状況を知る事が出来る様に工夫され、職員全員でサービス向上に取り組めるようになっていた。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			職員のコミュニケーションが良好であり、日常の話し合い、ミーティングでも意見を出し合う関係が出来ていた。	
		<b>2. 職員の確保・育成</b>					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			かかり付け医への通院、理美容院への付き添い支援、希望の入浴等入居者の生活の流れを支援する職員の勤務ローテーションを組んでいた。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			3ヶ月の見習い期間を設けたり、職員が受講した研修の報告の場を設けたり、報告書は職員全員に回覧して周知していた。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			全体で月1回、ユニット每では時間の許す限り親睦会を開き、ストレス解消に努めていた。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>3. 入居時及び退居時の対応方針</b>					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			本人、家族等と事前に面会し、主治医からの情報や居宅ケアマネからの情報等で十分検討していた。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			入居者及びその家族や主治医と相談して、退去後の受け入れ先の確保をして、納得のいく支援をしていた。	
		<b>4. 衛生・安全管理</b>					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			職員の日常の仕事のリズムとして、掃除、洗濯、消毒等きちんとチェックできるようにして、取り組みホーム内の清潔や衛生を保持していた。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			保管場所、管理方法を取り決め、その通りに実行していた。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話あい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故報告書、ヒヤリハット報告書をまとめ、職員全員で共有し、原因の追究と今後の対応・対策・改善につなげていた。	
<b>内部の運営体制 10項目中 計</b>			10	0	0		
		<b>5. 情報の開示・提供</b>					
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			昨年の評価の改善点が改善されていた、誠実に役立つ事を受け入れようとの姿勢が感じられ、協力的であった。	
		<b>6. 相談・苦情への対応</b>					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			重要事項説明書に明記し、契約時入居者及びその家族等に説明していた。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		
		7. ホームと家族との交流					
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族会での話し合い、面会時の声かけ、定期的な連絡等で家族が気がかりな事意見や希望を気軽に相談出来る関係作りに積極的に取り組み実行していた。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)	○			1ヶ月1回心身の状況報告と2ヶ月に1回の写真入りのうららか通信で日常の様子を具体的に伝えていた。	
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			事前に家族と相談して定めていた。1ヶ月に1回出納を報告していた。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
		8. ホームと地域との交流					
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○		現在行なわれていないが、生保の入居者の受け入れもあり、市との連絡は出来ていた。	GH事業の推進にとって重要な存在であり地域密着型サービスとして協力関係を築いてくれることに期待する。
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○		時々近所の子ども達が遊びに来ている。職員も機会作りに取り組む姿勢があった。	行事やイベント等の機会に自治会や近隣との交流や関係作りの努力を望む。
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			商店、消防署、警察、幼稚園等に理解を拡げる働きかけを行なって、協力を得ていた。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(痴呆の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			入居者に配慮しつつ、研修の受け入れ、職業体験、見学を受け入れていた。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			2	2	0		

- ※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- (2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。

## 2. 調査報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
<p>「何が出来るか常に考え学び、改善する精神を大切にします。」を理念として掲げている。職員は、入居者ひとり一人の生活歴、性格、思い、希望を十分把握して、その人を丸ごと受け止め、介護に当たっている。さらに介護記録などあらゆる記録文書は、管理者と職員の創意で作り上げられている。さまざまな方式の長所と現場の創意で、的確な情報を網羅させる工夫がなされている。ケアにも様々な工夫や配慮があり、グループホームの長所が活かされている。医療法人が母体であるので、衛生面・口腔ケア等にも配慮が行き届いている。なにより入居者の表情が明るく、伸びやかであった。入居者はそれぞれの空間作りを楽しんで居られる個室の雰囲気である。入居金、利用料ともきわめて低廉であることも、このホームの優れた点と言える。</p>	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I	特に無し
運営理念	
II	入居者の身体機能の後退を想像すると、居室の物入れの開閉式が気になる。高い棚と、ハンガーかけの位置が高いと思われる。トイレドアも開閉式だが、できれば引き戸のほうが、入居者は体を開かずにも思われる。
生活空間づくり	
III	特に無し
ケアサービス	
IV	特に無し
運営体制	

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
I 運営理念			
① 運営理念	4項目	4	
II 生活空間づくり			
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	4	
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6	
III ケアサービス			
④ ケアマネジメント	7項目	7	
⑤ 介護の基本の実行	8項目	8	
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	10	
⑦ 生活支援	2項目	2	
⑧ 医療・健康支援	9項目	8	
⑨ 地域生活	1項目	1	
⑩ 家族との交流支援	1項目	1	
IV 運営体制			
⑪ 内部の運営体制	10項目	10	
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2	
⑬ ホームと家族との交流	3項目	3	
⑭ ホームと地域との交流	4項目	2	